

慶 弔

山内皓平 日本農学アカデミー会員（北海道大学教授）が平成15年春に紫綬褒章を受章されました。こころからお慶び申し上げます。

田名部雄一 日本農学アカデミー会員（岐阜大学名誉教授）が平成16年春に瑞宝中綬章を受章されました。こころからお慶び申し上げます。

編集後記

日本農学アカデミー総務企画委員 谷口 旭

アカデミー会報第6号がようやくできました。全号同様、「編集後記」はお詫びから始めなければなりません。今号も発行が大変遅れまして、会員の皆様にはご迷惑をおかけしました。編集担当として、心よりお詫びを申し上げます。

今号の「論壇」は、日本学術会議第6部の専門委員会における検討の概要に集中しています。これは、日本学術会議がほかの機関組織に優先するということを主張するものではありません。祖田会長の「巻頭言」にあるように、日本学術会議の部編成は本年10月（第20期）から3部制に改組されます。俯瞰的視野から中立的で効果的な提言や意見表明をするようにとの、政府の期待に応えるべく実施される改組です。このことはすなわち、第6部という農学領域に特定した部がなくなることを意味します。

一方、わが国における科学界には領域統合の機運は全くなく、農学は相変わらず一大領域として存続しつづけます。すなわち、日本学術会議の内外間に不整合が生ずることになります。そうした不整合を克服して期待に応えるには、それなりの工夫が必要です。学術会議の提言等を必要とするものの中には、当然農業・農学に特化した産学官の組織機構があります。それに応えるべく、農学領域の科学者コミュニティーの意見を反映させながら審議を深め、意見を集約し、それを発出するための、安定した仕組み（領域別委員会）が必要です。それは、わが国における農学界の存在を社会に向かって顕わにする重要な仕組みの1つでもありますから、アカデミー会員各位にあっては関心の深いところであろうと思います。

今期の第6部では4つの専門委員会を設け、その検討をしています。第19期が解散する9月が迫ってきた今、各専門委員会での検討もほぼ最終段階に来ました。その概要を皆様にお知らせするのが、今号の「論壇」の目的です。その意味では、発行が遅れたことはむしろ幸いでした。